

## 海外派遣研究助成事業による研究の成果

研究者氏名	砂川 秀樹 <span style="float: right; border: 1px solid red; border-radius: 50%; padding: 2px;">印</span>
所属機関	栃木県立がんセンター
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究に従事した外国の研究機関名</li> <li>・参加した国際学会・会議名</li> </ul>	International EAES Congress (欧州内視鏡外科学会国際会議)
渡航期間	自 2018 年 5 月 30 日 至 2018 年 6 月 1 日
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究内容</li> <li>・国際学会・会議内容</li> </ul>	HOW TO APPLY THREE-DIMENSIONAL COMPUTED TOMOGRAPHY SIMULATION FOR LAPAROSCOPIC LYMPHADENECTOMY AROUND THE SPLENIC HILUM FOR GASTRIC CANCER
<p>研究成果 (要約: 800 字)</p> <p>2017 年 5 月 31 日から 6 月 1 日まで、イギリスのロンドンにて行われた欧州内視鏡外科学会国際会議に参加した。この学会は、ヨーロッパを中心に世界中から主に消化器疾患の内視鏡治療に関する演題が集まる学会で、毎年日本からも多くの著名な先生方が参加されている。私は、6 月 1 日に行われた Elevator pitch on Gastroduodenal disease のセッションで、Short oral 発表をした。研究内容は、解剖学的に複雑な関係を形成している脾動静脈・脾臓・脾臓の位置関係を把握する際の術前 3D-CT の有用性を報告したものであった。</p> <p>上部進行胃癌に対する手術は欧州においても行われているが、合併症が高く難しい手術とされている。その要因は術中出血や他臓器損傷、術後合併症率の高さが関係しており、本研究における 3D-CT を活用することで、術中の偶発症を防ぎ、手術手技の助けとなる可能性がある事を示唆した。</p> <p>該当学会における 3D-CT に関する報告は、肝臓領域では散見されたが、上部消化管領域に於いては報告が見られず、新規性のある発表であった事を認識した。さらに研究を続け、論文発表を行う予定である。</p>	